

研究所彙報 XVIII

— 1971.12~1972.11 —

《学位受領》

「東海道新居関所の研究」

72年6月14日 東洋大学

文学博士 近藤 恒次

《学会および研究会報告》

※日本民俗学会年会

(72年10月2日, 於新潟大学)

「山の神と男性」 千葉 徳爾

※曹洞宗宗学研究会

(72年11月22日, 於駒沢大学)

「日本曹洞宗教団展開の特質」 鈴木 泰山

《現地調査》

(A) 呉人集団の分置・定着実証第2回調査

夏目所員は72年6月8・9日奈良県高市郡明日香村大字松前および栗原を中心とする地域において、応神紀等に見える大和国松隈野の呉原(現栗原)と延喜兵部式に見える遠江国栗原駅の「栗原」との関係から遠江国三方原台地に呉人集団の分置・定着を実証するための調査を行ない、三方原台地下の谷間に立地する積石塚古墳群(内野古墳群の内)を高句麗系の呉人の墳墓と想定、呉人の祖神を祀る神社と考えられる式内賀久留神社に対応すると考えられる神社を栗原の呉津孫神社(式内)に求め得たことなど未確認ながら一応の成果を得た。

(B) 約半世紀間不通であった本坂道の調査復原の踏査

夏目所員は72年7月2日「姫街道を守る会」の会員約40名らとともに本坂峠において、約半世紀間草木に埋められ不通の状態にあった本坂道(旧姫街道)を徹底的に調査し復原するための踏査を行ない、鏡岩の所在・植物

学上貴重とされるツバキの原生群落地帯を確認し復原修補を要する個所を指摘し得た。

(c) 漁民生活史および移民生活史のための予備的調査

後藤所員は72年8月21日~25日学生6名らとともに三重県志摩郡大王町および志摩町において漁民生活史および移民生活史のための予備的調査を行なった。

(D) 東海道地方曹洞宗大源派の展開とその宗風

鈴木(泰)所員

(a) 72年8月28・30日鈴木泰史、二木梅重、土地の古老らとともに掛川市幡鎌最福寺寺田円通院廃止址の撮影および開墾時の事情聴取を行なった。

(b) 72年8月30日可睡斎において大洞二代和尚置を再確認し崇信寺・飯田城址の地理的關係を探查した。

(c) 72年9月6~8日近江洞春庵・洞寿院の立地条件および丹生川に沿って登る割合に平坦な道等を確認した。

(d) 72年9月30日野部一雲斎と天竜川との地理的關係および川僧語録との対比をした。

(E) 山村の変容に関する社会学的研究

牧野・坂井所員は72年9月24~27日社会学科学生らとともに北設楽郡津具村において山村の変容に関する社会学的研究調査を行ない基礎資料の蒐集を行なった。

(F) 狩猟伝承調査

千葉所員

(a) 72年9月28日京大川村教授とともに福井県においてサルの猟法調査を行なった。

(b) 72年10月4~7日新潟・山形県においてクマ・サルの猟法調査を行なった。

(c) 72年11月23~25日学生1名とともに石川

県白峯村において白山地区の狩猟法調査を行なった。

(G) 志摩漁村の変容に関する社会学的研究

川越、島本、牧野、坂井所員は72年11月13～15日三重県志摩郡漁村地区において志摩漁村変容に関する社会学的研究調査を行ない基礎資料の蒐集を行なった。

(H) 山地崩壊調査

千葉所員は72年7月～11月にかけて水利科学研究所員、営林局関係者らとともに岐阜県恵那郡付知町において山地崩壊調査を行なった。

《著書・論文》（『』は著書、「」は論文）

○久曾神所員

『御書本白人秀歌』笠間書院 71年12月20日

『大和物語勝命本』汲古書院 72年1月

「陽明本継色紙」かな研究46号72年1月20日

『神田本太平記(上下)』汲古書院72年2月・10月

「赤人集の本文批評」愛知大学文学論叢48輯72年3月

「西本願寺本人麈集」かな研究47号72年4月20日

「西本願寺本赤人集」かな研究48号72年7月20日

「伝源俊頼筆京極関白集切」かな研究49号72年10月20日

○近藤所員

「豊橋地方医事史考」豊橋市医師会々報(第1～第8)72年5月

○鈴木(泰)所員

「曹洞宗の地方発展」曹洞宗全書刊行会会報71年9月～72年11月

「可睡斎外史」道光 72年6月～11月

○田崎所員

「神田孝平の数学観をめぐって」愛知大学文学論叢 48輯 72年9月

○千葉所員

『続狩猟伝承研究』風間書房 71年12月25日

『切腹の話』講談社 72年8月28日

「柳田国男稿『インドネシアのこと』について(2)(3)」愛知大学文学論叢47・48輯

72年3月, 9月

「八重山諸島のマラリアと住民」地理学評論45巻7号 72年7月

○夏目所員

「嵯峨野文学抄覚え書」同朋国文72年4月15日

○堀井所員

『マルティネ「言語の本質」』紀伊国屋書店71年12月1日

「『言語』『現代世界言語地区』ほか言語関係諸項目」現代グランド百科事典

71年12月15日共訳

『京都語位相の調査研究』東京堂

72年1月20日共著

「Quelques observations sur les mats compoies」ロマンス語研究6号 72年2月20日

『マルティネ「世界の言語」』紀伊国屋書店72年2月29日共訳

「記号学と言語学」愛知大学文学論叢47輯72年3月15日

「表現の深さと三つのレベル」表現研究15号72年3月31日

「『豊橋地方の方言』序文」豊橋地方の方言72年10月1日

《昭和47年度研究所組織》

所長 川越 淳二

所員 歌川 学

久曾神 昇

後藤 和夫

坂井 達朗

島本彦次郎

鈴木 中正

千葉 徳爾

夏目 隆文

牧野 由朗

川越 淳二

見城 幸雄

近藤 恒次

榊原淳一郎

鈴木 泰山

田崎 哲郎

中出 惇

堀井令以知

松下 智

運営委員(庶務) 見城 幸雄

(企画) 歌川 学

(資料) 島本彦次郎

(編集) 千葉 徳爾

事務委託 山本 志枝